



正法寺新聞



皆で報恩講を勤めましょう

これからが
これまでと
決める

藤代聰庵

2017. 11.

第 11 号
正法寺発行



平成29年 正法寺の報恩講

12月5日（火）～8日（金）

■大達夜
(5日は午後席のみ)

12月7日（木）
19時より

詳細は別紙のご案内をご覧下さい

とも言われ、この一年を振り返り新たな気持ちで一年を始める区切りとしても大切にされてきました。大村市には真宗以外のお寺も多く、なかなか『報恩講』が根付いていませんが、「皆で報恩講を勤めましょう」との願いのもと、少しずつ準備・片付けを皆さんで行うように勤めています。他の法要より準備が多く内容も分かり辛いかと思いますので、今回の特集をご覧になり、ぜひ十二月の報恩講にご参加ください。

『報恩講』

は、宗祖親鸞聖人御命日の法要です。親鸞聖人の教えに遇い、自らの依りどころを教えていただきいた御恩に報謝していくことを誓います。また、「真宗門徒の一年は報恩講で終わり、報恩講で始まる」

とも言えます。親鸞聖人の命日前夜を亡くなられた人の命日前夜のことといいます。「大達夜（おおたいや）」

とは、親鸞聖人の命日前夜をいいます。ですのでご命日の法要である「御正忌報恩講」最終日を聖人のご命日とさせていただくのです。

「大達夜（おおたいや）」

とは、亡くなられた人の命日前夜のことといいます。親鸞聖人の命日前夜をいいます。ですのでご命日の法要である「御正忌報恩講」最終日を聖人のご命日とさせていただくのです。



年に一度、報恩講の時のみ掛けられる御絵伝もぜひ拝観ください。



？御絵伝とは？

本願寺第三世覺如上人がつくられた、親鸞聖人の御一生を描いた絵巻物「本願寺聖人伝絵」から挿絵の部分だけを抜き取ったもの。

大達夜の最後には
親鸞聖人がお好き
だった、ぜんざい
を頂きます。
(手作りです!)

△大達夜△
達夜とは、亡くなられた人の命日前夜をいいます。親鸞聖人の命日前夜をいいます。ですのでご命日の法要である「御正忌報恩講」最終日を聖人のご命日とさせていただくのです。

△大達夜△
達夜とは、亡くなられた人の命日前夜をいいます。親鸞聖人の命日前夜をいいます。ですのでご命日の法要である「御正忌報恩講」最終日を聖人のご命日とさせていただくのです。



紙上で正法寺を体験できるコーナーです！

準備に参加する

①おみがき。仏具を手で磨く作業です。見かけよりも力が必要な作業です。男性が少ないのにぜひ男性の方の積極的な参加をお待ちしています。

今年は12月1日（金）9時からです。

②御華束作り。丸餅を四百個近く作り、写真のように五つの供笥にお供えします。

今年は12月2日（土）8時からです。



②



報恩講でも他の法要と同様に、お齋（昼食）をお出ししています。こちらの材料を出来れば皆さんのお供えでと思っております。お野菜等あられましたら、法要前日までに頂けると助かります。



④五色幕や紫幕をします。本堂の周りに掛けていり幕をとり、畳みます。

⑤お華やお華束を解く。お下がりとしてみんなにお分けします。

⑥振り返る。みなさんで座を囲みお茶をしながら、法要や、この一年を振り返りましょう。

【お飾りの片付け】

12月8日（金）午後席終了後



片付けに参加する



またここから
一年が始まります!!

？本山の報恩講はどんな様子？

東本願寺での報恩講は宗祖親鸞聖人の御祥月命日までの一週間に勤められます。<11月21日～28日>

満堂の様子→



←28日の御満座には体を力強く前後左右に動かしながら念佛と和讃がよまれる「坂東曲（ばんどうぶし）」が勤まります。

洗心会々報

第十二号

一日研修旅行

6月1日長崎教務所／軍艦島

今年の研修旅行は、長崎教務所と軍艦島へ。教務所では、「非核非戦」の碑に関するお話を聞きしました。昼食は教務所にて吉宗の蒸し寿司定食をいただき、軍艦島クルーズも天気に恵まれ無事全行程を周りました。ご家族での参加もあり賑わいました。（参加35名）



今年も洗心会の活発な活動が続いています。そんな中、少し時期が遅れましたが、洗心会から正法寺へ「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」の記念品として、「お内仏打敷一式」を寄贈いたしました。ご住職から出来れば夏物をということでしたので、ご覽のように涼しげな色の打敷となりました。裏に刺繡で洗心会寄贈の文字が入っています。末永く正法寺に伝わっていく御仏具です。冬期には仕舞われますので、ぜひ夏期（六月～九月）にご覧ください。寄贈に関する詳細は、総会にて報告いたします。

（当日の感想より）

昨年同様今年も「真宗入門クイズ」を開催。グループ分けはなく、個人で解答用紙に記入しながら行いました。身近な内容も多く、皆さん真剣に取り組みました。

9月1日正法寺にて／34名
研修会（半日）



当日はこのような問題が出されました!!

①親鸞聖人が特に大切された經典はどれでしょう？

1. 佛説無量壽經 2. 般若心經 3. 正信偈

②報恩講とはどんなお講でしょうか？

1. 蓮如上人のご命日をご縁としたお講
2. 親鸞聖人のご命日をご縁としたお講

③お内仏（仏壇）は何を表しているでしょうか？

1. 净土 2. 天国 3. 冥土

答え ③ ② ①

春の法要

（花まつり/初参り式）

初参りには9家族が参加されました!!





坊守の

仏ブツ寺日記

【五】

住職継職から五年、息子達が成長したこともあり、お寺の行事に幅が出てきました。また、以前から取り組んでいたことも正法寺の願いが届くような場へと変化しつつあります。

①ご毎日昼の学習会。

七月より内容が新しくなり、後半三十分が輪読会（座談）になります。進行は坊守が担当。お内仏のお飾りのこと、介護のこと等、身近な話題を中心に取り上げています。

②ヨガ教室。ヨガは少々体力が必要なので、若い方が中心に参加されています。ヨガの最後語っています。現役のが参加されています。（日程はホームページに掲載しています）

③俱会一処ライブ。正法寺では四度目の開催でした。老若男女様々な方が六十名ほど参加。ライブの合間にご法話（名和達宣師）を挟み、タテさんの歌を通して教えをいただきました。

④ボーカスカウトの方々とそろめん流しを開催し、合宿も行いました。夜には紙芝居や住職によるお話をしました。

お寺で想う
いろんなこと
語ります!!



Q. 法事は遅れるより早い方がいいのですか？

A.

当日に出来るにこした事はないですが、皆様が集まれる時に頂ければ早くても遅くても良いです。一番重要なのは、たくさんの方が法事のご縁に遇える事です。生きている我々が亡き人のご縁で仏法を聴ける身になること（手が合わさる事）が重要なことです。その為のご法事です。

みんなの質問にお答えします!!

Q. 法事のお願いは電話でもできるのですか？

A.

はい、できます。お日にちがおおよそ決まられましたら、できるだけ早めにお電話下さい。必ずしもご希望に添えるとは限らないので、お斎などお店への手配はお寺との調整がについてからお願ひします。



記事担当—
(法務員/島田)
※何か質問があればお寄せ下さい!

真宗・入門

本尊	あみだによらい 阿弥陀如来
正依の經典	仏說無量壽經（大經） 仏說觀無量壽經（觀經） 仏說阿彌陀經（小經）
宗祖	しんらんしょにん 親鸞聖人
宗派名	しんしゅうおおたには 真宗大谷派
本山	しんしゅうほんじょう 真宗本廟（東本願寺）



親鸞聖人

今回は淨土真宗の宗祖、親鸞聖人のことについて紹介させていただきます。

記事担当（法務員原田）

①親鸞聖人は一一七三年京都・日野でお生まれになりました。早くして両親を亡くした事が縁となり、九歳で出家をされました。そして、比叡山での修行が始まりました。

②修行を始めて二十年が経ち、自力の修行に行き詰った親鸞聖人は比叡山を下り、法然上人を訪ねられました。そこで、修行をしている人だけでなく、あらゆる人が救われるお念佛の教えと出遇われました。そして、法然上人の弟子となりました。



③一二〇七年、念佛の弾圧事件が起きました。法然上人とその門弟たちは罪人として捕らえられ、法然上人は土佐（高知県）、親鸞聖人は越後（新潟県）に流罪となりました。

④越後に流された親鸞聖人は、そこに住む人たちとともにお念佛をされていました。それから、流罪が許されたことをきっかけに、お念佛と縁のない人々を救済するため、関東でお念佛をひろめていました。



⑤六十三歳のころ関東での生活を終えられ、親鸞聖人は、京都に帰ることを決意しました。その後一二六二年十一月二十八日、九十歳で亡くなられるまで、たくさんの人たちにお念佛の教えを伝えられました。



住職が語る『正信偈』第11回

さやくしんけんきょうだいきようすくおうちょうぜつごあくしゆ
獲信見敬大慶喜 即横超截五惡趣

前回は一気に六句進めていきましたので、

今回は右の二句だけを学んでいきたいと思います。現代語訳すると次の様になります。「信心を獲て、仏を仰ぎ見てその姿を敬い、大いに喜ぶ心がわきおこつてくる人は、たちに様々迷いをこえ、とらわれ的心を断ち切つていくのです。」

さて、まず最初に「信心を獲て」とあります。以前にも申しましたが、真宗における信心というのは、私たちが自発的に阿弥陀如來の願いや救いを信じようと心に決めることではありません。お念佛の功德により如來からいたく真実の心が、喜びとともになって自然にわきおこつてくるものです。それは「真実信心」とか、「他力の信心」といわれるものです。では、私たちが自發的に行う信じるという行為はどう表現されるかというと、それは「自力の信心」といわれます。自力の信心は必ず条件をつけます。私を間違いなく救ってくれるなら信じるが、救ってくれないなら信じないということです。どんなに熱心に純粹な心で信じようとも努力しても、その奥底には自分の都合というものが見え隠れしているのです。もし、「阿弥陀さんはあなたのことを救いませんよ、お念佛の教えは嘘ですよ」といわれたら、「なんだ、そうか、じゃあ信じ

るのを辞めよう」と思うことでしょう。ですから、自分の都合の良し悪しで生きていく私たちは、本当の意味で信じるという行為は出来ません。

ではなぜ、私たちに真実の心がわきおこつてくるかというと、そこには次の「見敬」ということが関係してくると思います。見て敬うということですが、何を見て敬うかというと、当然、阿弥陀如來を見て敬うということでしょう。しかし、これは何も阿弥陀如來に実際お遇いして敬いなさいということではありません。法としての、教えとしての如來に出遇うということです。法に出遇うというのは、前回お話しした様な、煩惱に振り回され自分の都合の善し悪しに奔走し如來に逆らつて生きる私の姿と、そんなどから救わねばならないと、背後からいつも照らしてくださつている阿弥陀如來のお姿がはつきりとしてくるということです。どんなに善人ぶつても離れられることがあります。迷いを断ち切る、自己への執着を断ち切つていくということです。

私たちは自らの自力の行為に執着します。努力に努力を重ね積み上げていく善を大切なものとして、自らの正義として誇つていくのです。しかしながら執着というものは苦しみを生みます。お金・権力・健康など、持てば持つほど、執着すればするほど、それが失われてしまうのではないかという不安や恐怖も大きくなります。執着が深ければ深いほど苦しみも深くなります。その事に気づかず私達は、迷い執着しながら五惡趣という境遇をさまよつて生きているのではないでしょうか。そうした自分ではなくかなか気づけない本当の私を見つめていく眼を、如來からいただいていくのです。

次に「横に五惡趣を超截す」と説かれます。難しい語句が続きますので一つずつ説明していくと、「五惡趣」というのは、

地獄・餓鬼・畜生・人・天の五つの境遇のことです。なした行為の報いとして現れる境遇のことです、仏教では超えて行くべく迷いのあり方として説かれます。また、横はよこさまどいうことで、順序を踏まずに一挙にということです。豎たてというのが我々の自力のあり方で、一步一歩階段を上がるよう段階を踏んで進んでいくことになりますが、横超おうちょうというのは、階段を一気に横に飛び越えてゴールに到達するという、常識では説明のつかない他力のあり方のことを指しています。そして截せつは、截断（せつだん）と書くように、切斷するという意味になります。迷いを断ち切る、自己への執着を断ち切つていくということです。

私たちは自らの自力の行為に執着します。努力に努力を重ね積み上げていく善を大切なものとして、自らの正義として誇つていくのです。しかしながら執着というものは苦しみを生みます。お金・権力・健康など、立てられた如來の心が、本当にありがたい立場であるからこそ救わねばと誓願を立てる身である私を自覚したとき、そういう身であるからこそ救わねばと誓願を立てられた如來の心が、本当にありがたいものだと見えてくるのです。そうした時に自然と頭が下がり、おかげさまでと喜びの心ととともに如來の願いをいたたくを身になるのです。